

取扱説明書



2 人乗リアルミ合金製油圧電動リフト WQU シリーズ

WQU15・20・25・30・35・37・40・48



※使用前に必ずお読み下さい

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書は、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼 5-12-12

株式会社アクセス

TEL: 047-481-8721

FAX: 047-481-8722

www.access-co.com

Ver.240601_accsee-co.com

目 次

製品仕様書	2
1.各部の名称	3
2.安全上の注意	4
2-1.安定性	4
2-2.衝突・転落の危険	5
2.1 衝突の危険	5
2.2 転落の危険	5
2-3.感電の危険	6
2-4.リフト移動時の危険	7
3.操作手順	8
3-1.設置場所の決定	8
3-2.電動リフトの組立	9
3-3.作業台での操作	13
4.緊急降下装置の操作	13
4-1.下部コントロールボックスでの下降操作	14
4-2.手動降下バルブでの下降操作	14
4-3.停電時の作業台での下降操作	14
5.補助バッテリーの交換方法	14
【バッテリーの交換】	15
6.故障かなと思ったら(トラブルシューティング)	16
7.リフト使用時における電気環境について	17
8.年次点検サービスの御案内	18

製 品 仕 様 書

製 品 名	アルミ合金製電動油圧リフト（高所作業台）
商 品 名	WIDE QUICK UP（ワイドクイックアップ）
国内総発売元	株式会社アクセス

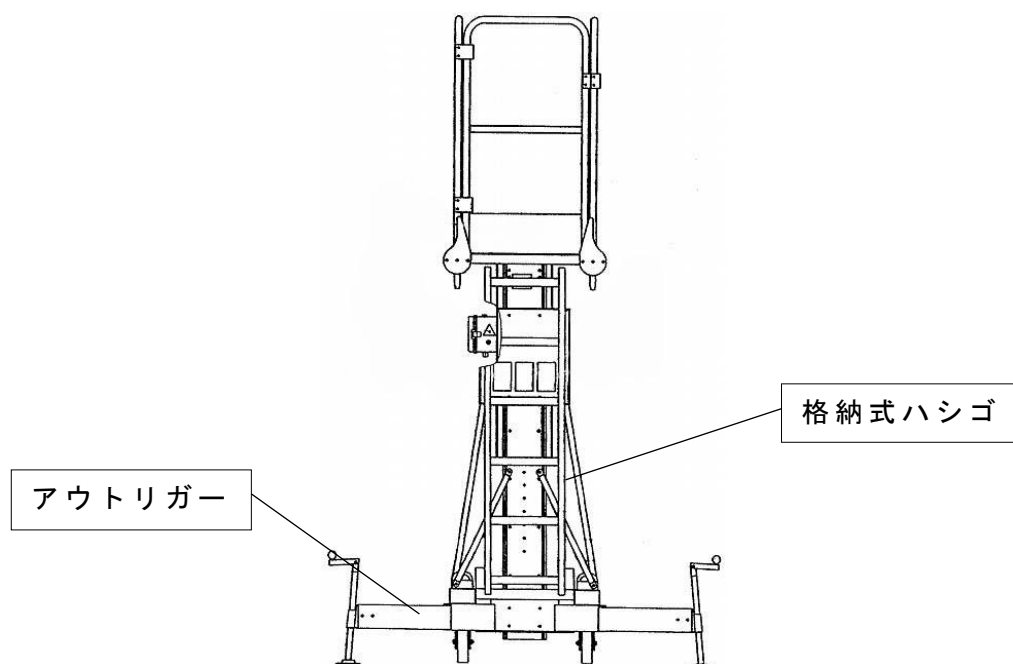
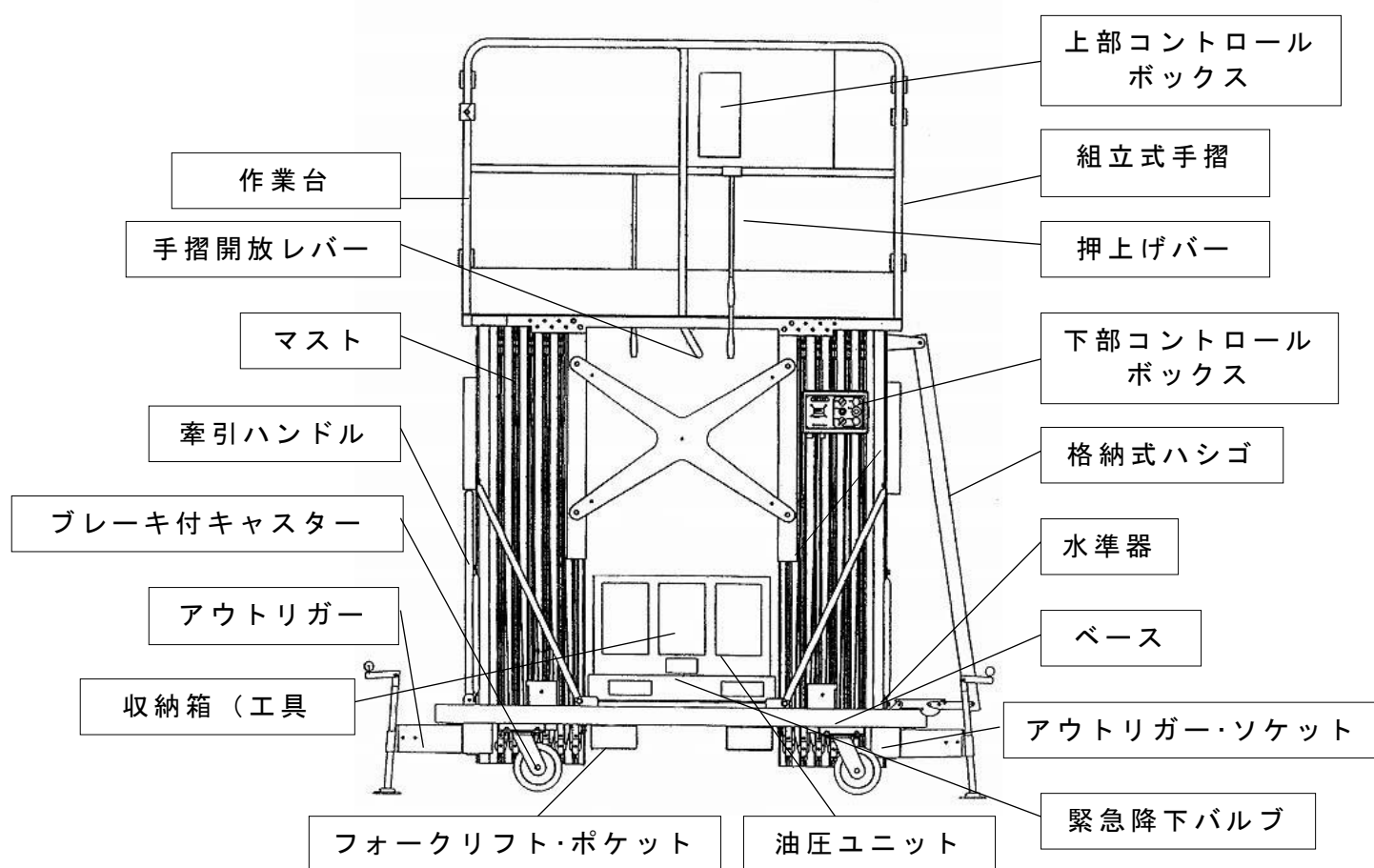
型 式		WQU15	WQU20	WQU25	WQU30	WQU35	WQU37	WQU40	WQU48
作業可能高さ		6.80m	8.10m	9.50m	10.90m	12.20m	13.70m	14.70m	16.50m
作業床高さ		4.80m	6.10m	7.50m	8.90m	10.20m	11.70m	12.70m	14.50m
最大積載荷重		340kg				272kg			200kg
作業床サイズ		1860mm×700mm（※WQU48 のみ 1380mm×700mm）							※
本体寸法	全 高	1960mm							2050 mm
	全 長	2080 mm							1600 mm
	全 幅	800mm							
	自 重	550kg	590kg	624kg	669kg	714kg	775kg	815kg	850kg
作業台手摺高		1110mm							
アウトリガー 設置寸法	横	2320mm	2320mm	2320mm	2480mm	2480mm	2690mm	2840mm	2700mm
	縦	1450mm	1450mm	1450mm	1730mm	1730mm	2090mm	2350mm	2700mm
積載人数		2 名							
壁面 寄付き	前面	380mm	380mm	380mm	520mm	520mm	740mm	820mm	1000mm
	側面	230mm	230mm	230mm	310mm	310mm	420mm	480mm	550mm
動 力		AC100V 50/60Hz （オプションの DC 仕様機は DC12V バッテリー）							

（※）仕様に関しましては予告なく変更する事があります。予めご了承下さい。

（※）DC 仕様機は AC 仕様機より自重が 20 kg 重くなります。


* 本文中の「リフト」とは、「アルミ合金製油圧電動リフト(高所作業台)」の略称として使用しております。

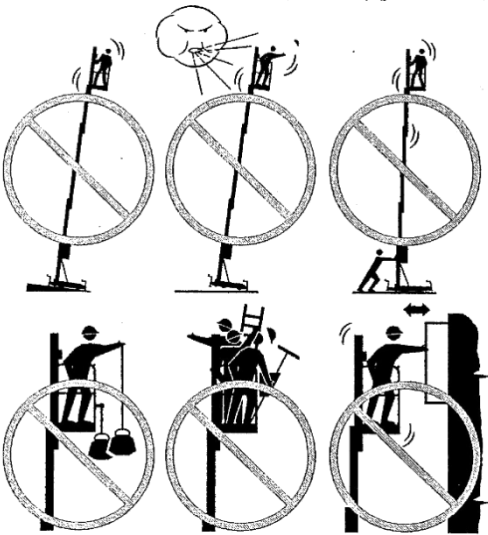
1.各部の名称



2.安全上の注意

2-1.安定性


危険




転倒の危険

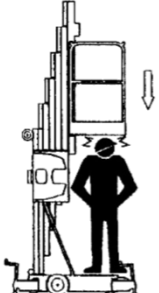
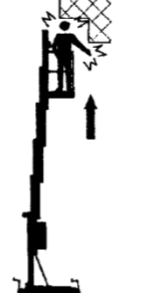
ーリフトの安定性に影響を及ぼす条件を熟知してください。これらを怠ると重大な死傷事故になる可能性があります。

- ー4本のアウトリガーが固い水平な地面又は床に固定され、全ての車輪が完全に浮くまでリフトは上昇させないで下さい。傾斜している所では使用しないで下さい。
- ーリフトが上昇している状態で移動しないで下さい。
- ーリフトに横荷重を掛けしないで下さい。
- ーリフトから何かを吊したり、クレーンの代わりに使用しないで下さい。
- ー作業台に乗れるのは2人だけです。3人以上乗せないで下さい。
- ー作業台をトラックの荷台の上で使用しないで下さい。
- ー風のある日に外で使用しないで下さい。
- ーメーカーの純正部品以外は使用しないで下さい。
- ーリフトを荷物の運搬用に使用しないで下さい。

- ・リフトの安全性に影響を及ぼす条件を熟知してください。これらを怠ると重大な死傷事故になる可能性があります。
- ・使用する前に、障害物、穴、落下物、地面あるいは床、周辺で作業をしている人など、作業場の状況をチェックして下さい。リフトを使用する場所が水平であること、過荷重でないことを確認して下さい。
- ・リフトを上昇させる時は、ベースの水平が取れていること、アウトリガーが正しくセットされていること、また車輪が全て浮いていることを確認して下さい。
- ・リフトは固い水平（3 度 1/20 以内）な地面又は床でのみ使用して下さい。リフトを穴、落下物、段差の縁などの近くでは使用しないで下さい。
- ・上昇時に急な動き、負荷の追加などは避けて下さい。
- ・過荷重は絶対に掛けしないで下さい。
- ・風のある日（風速 10m 以上）に屋外での使用はしないで下さい。
- ・リフトに対し横荷重は掛けしないで下さい。
- ・リフト上昇時にはヘルメットを装着して下さい。

2-2. 衝突・転落の危険


危険



衝突の危険

—これらの注意を怠ると重大な死傷事故の危険性があります。

—上昇時は頭上の障害物に注意して下さい。

—上昇時は作業台から身を乗り出さないで下さい。

—下降時は作業台の下に人が入らないように注意して下さい。

転落の危険

—転落により重大な死傷事故の危険性があります。

—4本のアウトリガーが正しくセットされていない状態で使用しないで下さい。

—作業台の上では両足でしっかり立って下さい。ガードレールの上に足を掛けたり座ったりしないで下さい。

—上昇時に身を乗り出したり、外に乗り移ったり、飛び乗ったりしないで下さい。

2.1 衝突の危険

リフトを使用するときは、周りの状況に注意して下さい。上昇・下降時に外部の障害物がリフトや作業者に触れない様注意して下さい。もし触れた場合は、一旦下まで降りて損傷を調べて下さい。

上昇・下降時は常に上下、左右、前後に何があるか注意して下さい。もしよく見えない場合は、下の見張り役の人に聞いてください。

下降時にリフトの下に人が入らないように注意して下さい。

2.2 転落の危険

使用者は作業台から落ちないよう細心の注意を払って下さい。転落は重大な死傷事故の危険性があります。

乗り降り口の扉が閉じていることを確認してから上昇を開始して下さい。

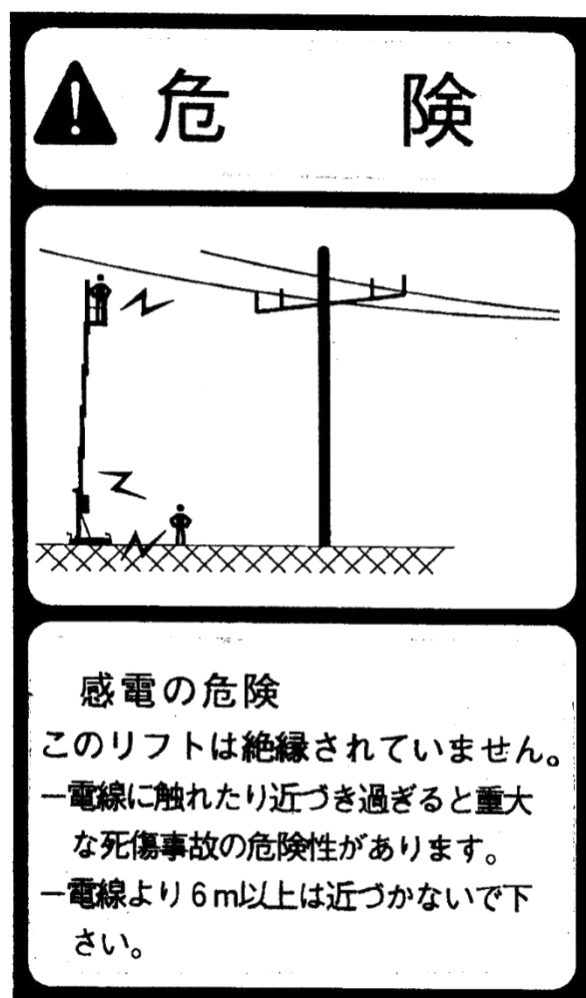
作業台の上では両足でしっかり立って下さい。ガードレールの上に足を掛けたり座ったりしないで下さい。

上昇時に身を乗り出したり、外に乗り移ったり、飛び乗ったりしないで下さい。

作業台は常にきれいにしておいて下さい。

作業台は必ず正しい方法で昇降して下さい。

2-3.感電の危険



電線の近くでは決して使用しないで下さい。

常に電線より6m以上離して使用して下さい。

電線に触れたり近づき過ぎると、重大な死傷事故の危険性があります。

電力会社に通知することなく、電線の近くで使用しないで下さい。必要な時は電源を切ってから使用して下さい。

電線があったら、全て通電状態であると思って下さい。

リフトをコンセントに差し込む時は、必ずアースを取って下さい。

もしリフトが電線に触れた時は、電気が切られるまで、リフトに触れないで下さい。

使用者は、全て近くの人に感電の危険を警告する責任があります。

作業台は絶縁されていません。使用中は関係者以外はリフトに近付けないようにして下さい。

作業台が電線に触れると、たとえリフトの使用者が感電しなくても、周りの人に重大な結果をもたらす危険があります。

電線に接触しなくても感電することはあります。特に高電圧の場合は危険ですが、低電圧でも注意が必要です。

リフトは電線より6m以上は離してセットして下さい。

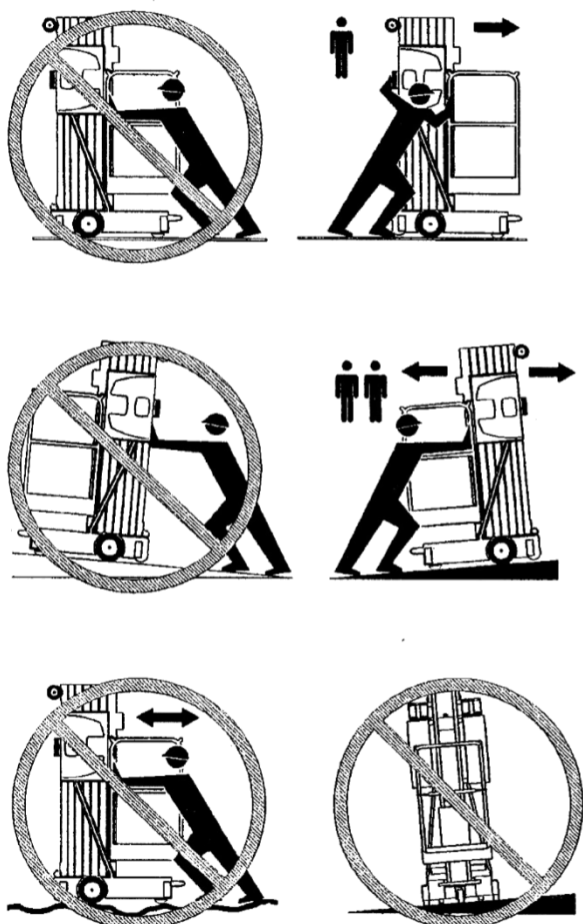
アース線をとっても効果はありません。

2-4.リフト移動時の危険



危

険



移動方法

リフトの積み降ろしは、この取扱説明書の指示に従って行って下さい。

衝突及び転倒の危険

下記の指示に従わない場合重大な死傷事故の危険性があります。

- 移動経路の前後には障害物を置かない様にして下さい。
- 電源コードは抜いて下さい。
- 移動する前に経路とその状態を調べて下さい。柔らかい、凸凹した所又は穴のあいている所を移動させないで下さい。
- 平坦で堅い床面では1人でも移動が可能ですが、安全の為に必ず2人以上で移動する様にして下さい。
- 移動中は足をキャスターに踏まれないように十分に注意して下さい。
- 5度までの傾斜でしたら4人で移動できますが、5度以上になりますと、人力では危険です。
- 傾斜地にリフトを横向きに置いたり移動したりしないで下さい。
- 傾斜地にリフトを置き放しにしないで下さい。

■リフトを移動する時の注意点

- ・必ず牽引ハンドルを持って移動して下さい。
- ・4輪自在のキャスターなので、移動方向を操作し易くなります。
- ・作業台は一番下まで下げ作業台には誰も乗らないで下さい。
- ・アウトリガーは全て抜き取り、ケースに収納して下さい。
- ・電源コードを抜き取り、経路から障害物を片付けて下さい。
- ・床面に傾斜がある場所では急激に走行スピードが増し、止められなくなる危険があります。
- ・傾斜がある場所では4名以上でゆっくりと移動し傾斜がきつい場所の移動はしないで下さい。
- ・狭い所を通る時は挟まれ等に十分に注意して下さい。

牽引ハンドルの取出し方



本体側面にある牽引ハンドルの上部にある固定ピンを引き上げます



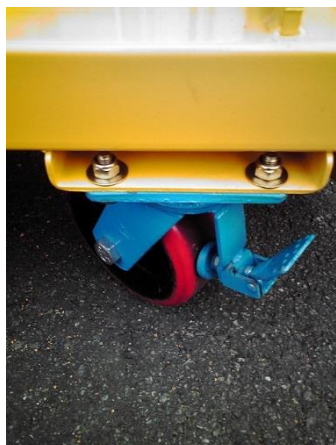
固定ピンを引き上げながらハンドルを手前に引き出します

3.操作手順

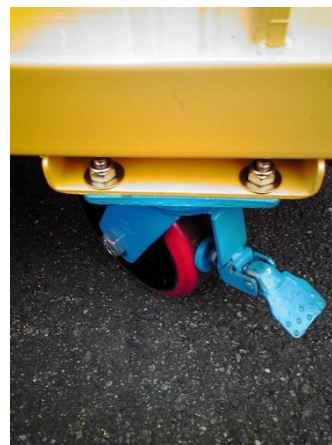
3-1 設置場所の決定

作業台を作業場所まで移動させたらキャスター4輪共にブレーキを掛け、本体が勝手に移動しない事を確認して下さい。又、床面が傾斜のない水平で強く強度のある事も確認して下さい。カーペットや畳などの上に設置すると、上昇時に大きな揺れが出たり、最悪の場合は転倒する恐れがあります。

(3° (1/20)までなら、アウトリガーのジャッキ調整を行い、水平を保つことで使用可能です。)



キャスター部の青いペダル
を踏み込むと



ブレーキがかかります
解除する場合はペダルを
引き上げて下さい

次に AC100V 用コンセントから電源を引きます。この機械は起動時に最大 15A の容量を必要としますので他の電動器具との併用は避け、安定した電源 1 回路を確保して下さい。又、必要に応じて**延長コード**類を使用される場合は、**長さ 20m 以下で太さ 2sq/mm²以上のコード**を使用し電圧降下を防止して下さい。**電源ドラム（コードリール）**を使用される場合も、**電圧降下防止の為にコードを全て巻き出してからご使用下さい。**

※上記のいずれかの障害により電圧降下現象が起きると、機械が正常に動作しなくなるばかりか、建屋側のブレーカーが落ちたり、コードが発熱したりする弊害を起こす危険性があります。



電源コードは下部コントロールボックスから出ています。
コンセント形状により、接地付プラグを使用して下さい。

3-2 電動リフトの組立

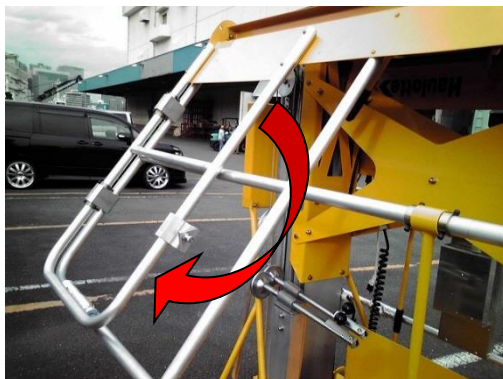
作業場所の周囲及び頭上に障害物が無いことを確認して下さい。

A、アウトリガーのセット

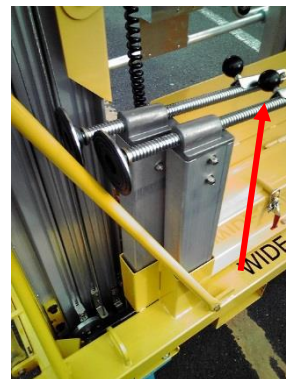
アウトリガー収納ソケットにあるアウトリガー4本を引き抜きます。この時に手前にある手摺棒を手前に引き出しながらアウトリガーを引き抜くと容易です。



手摺開放レバーを左に引き



手摺棒を手前に引き出します



アウトリガーを引き抜きます

次に引き抜いたアウトリガーをベースの四隅にあるアウトリガーソケットに差し込みます。アウトリガーは4本共に同じ形状、同じ寸法なので、どれをどこに差し込んでも構いません。



アウトリガーソケットの根元にあるロックピンを引きながらアウトリガーをソケットに差し込み、



ロックピンがアウトリガーの側面穴に「カチッ」とはまった事を確認します。



次にハンドルを右に回してアウトリガーのがたつき(遊び)がなくなる程度まで4本とも仮止めます。



B、インターロックランプの確認



下部操作ボックスにある
キーシリンダーに鍵を差込み



プラットホーム側に鍵を回し
ます。

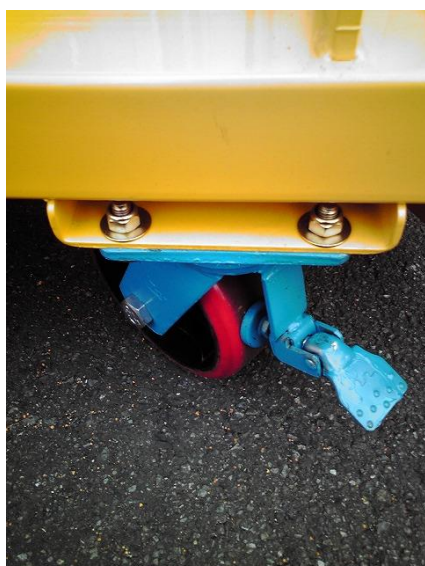


次にキーシリンダーの上にある開始ボタンを押すと
電源表示灯（緑色）が点灯し通電が確認できます。
電源表示灯が点灯しない場合は、非常停止ボタン
が押されていないか？ブレーカーが落ちていない
か？を確認して下さい。



先程のアウトリガーが正しい位置にセットされ仮止めが済む
と、下部コントロールボックス内のインターロックランプが
4つ点灯します。1つでも正しくセットされていないと、そ
の位置のインターロックランプは点灯せず、リフトは動作し
ません。

C、水平の確認



インターロックランプの4つの点灯を確認したら、その状態
から更に4本アウトリガーハンドルを2回転～2回転半位右
にまわすと、キャスターが浮き上がります。自重がキャス
ターからアウトリガーに移った事を確認して下さい。

（キャスターが床面から離れれば十分です）
最後にベース上にある水準器で機体が水平になる様
に各アウトリガーの高さを調整して下さい。



水準器内の気泡がほぼ中央の
黒円に入れば OK です。

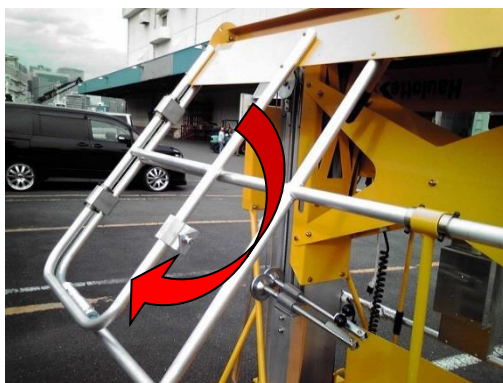
ご注意： このリフトは、アウトリガーインターロックランプの4つの点灯をもって、機体の水平を確保するものではありません。乗車前に必ず水準器で水平を確認してから御使用下さい。

D、作業台の組立

次に作業台の手摺枠を組立ます。



手摺開放レバーを
左に引きます



手摺枠を手前に引き出します



手摺枠が起き上がった
ら、押上げバーを使っ
て手摺枠が垂直になる
まで起こします



手摺枠が完全に起き上がると手摺開放レバーが元の位置に戻り、手摺枠は垂直の位置で自立します。
裏側の手摺枠も同じ要領で立ち上げて下さい。

次に作業台へ昇降する為のハシゴをセットします。



本体側面にあるハシゴ
の根元にあるロックピン
を引き



ハシゴを手前に引き
出します



完全に引き出した所で
ロックピンを固定します

ハシゴから作業台に上がり手摺枠の短手部分を組立てます。



長手側にマグネットで固定されている短手側用の手摺枠を引き出し

反固定側の手摺枠と完全に合わせたらロックピンで固定します

乗り込み側の短手枠も同様に組立て、四方が手摺枠で囲まれる形になったら完成です。

3-3 作業台での操作

※ 高所作業時にはヘルメットの着用が法律で義務づけられています。又、必要に応じて安全帯の使用もお勧めします。搭乗前には必ず御確認下さい。

作業台に上がったら昇降口の手摺枠を確実に締めて下さい。

作業台内コントロール部



※リフトの昇降動作と同時使用しないで下さい

AC100V サービスコンセント (8A)

非常停止ボタン

緊急時に押すと全ての動作を停止します。解除するには→の方向に軽く回して下さい

動作レバー

右回しで上昇・左回しで下降します。手を放すと元に戻ります

動作開始ボタン

動作レバーと同時に押す事で上昇下降動作をします。押している間だけ動作し、手を放すと元に戻ります。

4.緊急降下装置の操作

緊急時には非常停止ボタンを押すことにより、リフトの全ての電動操作を停止させることができます。非常停止ボタンは下部コントロールボックスと上部コントロールボックスの双方に設置してある、赤い大きなボタンです。



下部コントロールボックス



上部コントロールボックス

非常停止ボタンを使用した後は、ボタンの表面に表示されている矢印の方向（右）にボタンを軽く回すと、ボタンが手前に飛び出て通常動作に復旧します。下部コントロールボックスの非常停止ボタンを押した場合は、ボタンを復旧させた後に鍵を一度中立の位置に戻し、再度プラットフォーム側に回しリセットして下さい。その後に開始ボタンを押すと通電を開始し復旧します。

4-1 下部コントロールボックスでの下降操作

作業台が上昇中に、搭乗している作業員が何らかのトラブルにより自分で下降操作ができなくなった場合に、下にいる方が作業台を下降させる方法です。



下部コントロールボックスにあるキーシリンダーの鍵をベース側（下側）に切り替えて下さい。



キーシリンダーの右にある非常下降ボタンを押すと、作業台がゆっくりと下降し、同時に下降灯が点灯しブザーが鳴ります。

※ この動作を行うには下部コントロールボックス内にある補助バッテリーの残量が十分である必要があります。バッテリー残量のチェック及び、バッテリー交換の方法は後述の「補助バッテリーの交換方法」を御参照ください。

4-2 手動降下バルブでの下降操作

停電時や万一の電源システムのトラブルの際に、無電力で作業台を降下させる方法です。



緊急降下バルブはベース前面の下部中央部にあります。



先端部のツマミを左に回すと作業台が降下します。

緊急降下バルブを使用した後は、必ずバルブを右回りに締めて下さい。
バルブが開いたままだと、作業台を上昇させる事ができません。

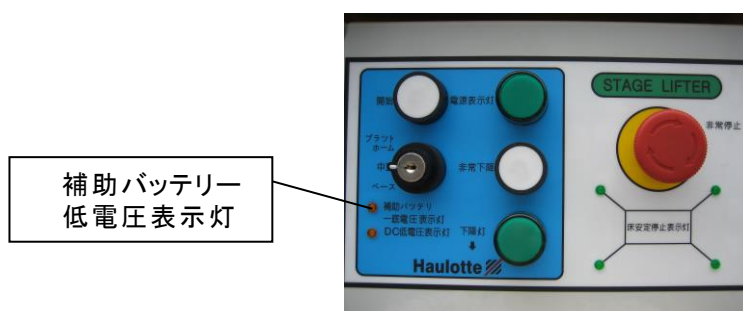
4-3 停電時の作業台での下降操作

前項で述べましたが、このリフトには補助バッテリーを搭載しております。
このバッテリーの容量さえあれば、停電時に下部に補助員がいなくても、通常の作業台からの操作で降下する事ができます。この作動条件として、

- 1、下部コントロールボックスの鍵がプラットフォーム側に回してある事
 - 2、補助バッテリー(単3電池/8本)の電気残量が十分である事
- が必要です。

5.補助バッテリーの交換方法

補助バッテリーの電気容量が低下すると、下部コントロールボックスにある「補助バッテリー低電圧表示灯」が点滅します。又、完全に容量が無くなると、通常時と同じく無点灯状態になってしまいますので、点滅が確認されたら早いうちに新しい電池と交換して下さい。



【バッテリーの交換】



下部コントロールボックス左の上下にある2本のプラスチック製の止め具を左に回して緩めて下さい。(抜き取る必要はありません)



コントロールボックスの左側面にあるロック金具を解除して下さい。
(金具中央の角穴にある小さなレバーを押しながら金具を引いて下さい)



フタを開けると内部の電装部が見えますが、必要以外の部位には手を触れないで下さい。故障の原因になります。



コントロールボックスの中央下部にバッテリーを収納してある黒いプラスチック製のボックスがありますので、これを引き出して下さい。裏側にコードが繋がっていますので、必要以上に引っ張らないで下さい。



単3アルカリ電池 (LR6 1.5V) が8本収納されていますので、全て新しい物と交換し元の場所に戻してコントロールボックスのフタを閉めて下さい。

3ヶ月に1度はバッテリーのチェックを励行して下さい。

6.故障かなと思ったら(トラブルシューティング)

次のページには、トラブルがあった時の原因の探し方とお客様で対応が可能な修理方法が述べられています。このトラブルシューティングの表に従い注意して分析することでより早くトラブルの原因を特定することが出来ます。このマニュアルで全てのトラブルをカバーしている訳ではありませんので、もしこのリストに記載されていないトラブルが発生しましたら、弊社までお問合せ下さい。

症 状	原 因	処 置
下部コントロールボックスのランプが1つも点灯せず上昇しない (モーターも回転しない)	[開始]ボタンが押されていない	電源を投入し下部コントロールボックスのキーを回した後に、「開始」ボタンを押す事を忘れずに。
	AC100V 電源がリフトに供給されていない	1.コンセントプラグのチェック。 抜けている場合は、正しく接続する。 2.補助コード、延長コードの断線をチェック。断線している場合は交換。
	漏電ブレーカーが働いている	下部コントロールボックス右側面にあるブレーカーを上にあげて下さい。
	非常停止ボタンが押されている	下部コントロールボックスと作業台内部の2ヶ所にボタンがあります。どちらかが押されていたら軽く右にボタンを回して解除して下さい。
下部コントロールボックスのアウトリガーインターロックランプが点灯せず上昇しない (モーターも回転しない)	オン/オフキースイッチが入っていない	スイッチをオンにする。
	アウトリガーのセッティングミス	アウトリガーのセッティング状態を、取扱説明書の通りに正しくセッティングし直して下さい。
	緊急停止ボタンが押されている	上下の非常停止ボタンを解除して下さい。 下部非常停止ボタンが押されていた場合は、キースイッチをリセットする必要があります。
モーターは回るが作業台が上昇しない	非常降下バルブが開いている	非常降下バルブを右に回して、しっかりと閉め直して下さい。
下部コントロールボックスの非常降下ボタンを押しても作業台が下降しない。	補助バッテリーの電池切れ	速やかに新しいバッテリーと交換して下さい。 停電時には作業台側でも下降できなくなります。

7. リフト使用時における電気環境について

【対象機種:WQUシリーズ全て】

1. このリフトは上昇起動時で最大 15Ah の電気容量を必要とします。

他の大容量電流消費機器と同一回路で同時に使用されますと、その機器は正常に動かないばかりか、リフトのヒューズが切れ、機械に通電しなくなります。

ご使用前に必ず他の大容量電流消費機器との併用が無いかを確認し、電気容量を確保してからご使用下さい。

2. リフトの昇降動作中はサービスコンセントを使わないで下さい。

本機は本体にあるサービスコンセントと駆動用モーターを合わせて 15Ah で作動するように作られています。サービスコンセントを使用する工具は必ず作業カゴを停止させた状態で使用して下さい。危険なばかりか電気容量オーバーとなり本体のヒューズ切れの原因となります。

3. 電源の延長コードは太く短くご使用下さい。

本体には約 2m の電源コードが付属しております。ご使用時には電源ドラム等で延長してお使い頂く事になりますが、電源用のコードは断面積が小さいと電圧ドロップ（電圧降下）を起してしまい、リフト本体のヒューズ切れを起してしまいます。又、長い距離を通電する事によっても同じような症状を起します。そこで、推奨される**延長コードは 2mm²/sq 以上の比較的太い線芯で、延長距離も 20m 以下**でご使用頂く事をお勧め致します。また、延長ドラムをご使用の際には、電圧低下を防ぐため**ケーブルを全て引き出して**ご利用下さい。

4. 夏場や冬場は全館の電圧が下がり気味です。ご注意を！

夏や冬にはエアコンが各所でフル稼働します。あまり知られておりませんが、通常は 100V の電圧も気が付かないうちに 90V 台に落ち込んでいます。このリフトは電流と電圧にデリケートな機械ですので、どちらかが規格を外れると動作不良を起します。動かない原因が分らない時は、電圧をテスターで計ってみて下さい。もし電圧が下がっていたら、一時的にエアコンを止めるなどの対処をしてみてください。

8. 年次点検サービスの御案内

平素、弊社の高所作業用リフトを御使用いただきありがとうございます。
この度は、高所作業用リフト年次点検の御案内を申し上げますので、御検討の程、
宜しく御願い申し上げます。

○なぜ、年次点検が必要なのでしょう？

～高所作業車の年次点検は次の関係法令により「年1回の実施」が定められております。
高所作業台（本機）に法定点検義務はありませんが、高所作業車に準ずる形での
年次点検の実施が望ましいとされております。

	点検・検査区分	関係条文	実施する者、資格	結果の保管
高所作業台	定期自主検査	安衛法第四十二条、同第四十五条、安衛則第九十四条の二十三、同第九十四条の二十四、同第九十四条の二十五	事業者（安全管理者）が指名する者	検査表を3年間
高所作業車	特定自主検査	安衛法第四十二条、同第四十五条、安衛則第九十四条の二十三、同第九十四条の二十五、同第九十四条の二十六	事業内検査者、検査業者検査者	検査表を3年間（実施済標章貼付）

尚、高所作業台に関しましては、厚生労働省労働基準局監修による、社団法人仮設工業会編集・発行の「仮設機材認定基準とその解説」には、その使用基準が明確に定められております。さらに、法令等に関係なく使用機材の整備不良から重大な事故に繋がる恐れも十分に考えられます。さらに未然に故障を防ぐという意味でも年次点検は必要となります。

○高所作業台年次点検サービスの内容

- ①弊社技術員が年1回、御打合せさせていただいた日時に御邪魔させていただきます。
点検内容は次の通りです。
○電気系統～ブレーカー、モーター、補助バッテリー、各種操作ボタン、各ヒューズ、各リレー、上昇・下降ソレノイド等全22項目
○油圧系統～フィルター、タンク、ポンプ、油量、油質、各バルブ、シリンダー等全11項目
○安全装置～インターロックスイッチ、アウトリガー、緊急停止装置、水準器等全12項目
○構造・車体～ベース、マスト、キャスター等全13項目
他、総合全77項目
- ②点検実施日を起算日とした、1年間有効の品質保証書を発行させていただきます。これは、御客様が取扱説明書に基づいた使用方法にて御利用になられた上で不具合が発生した際には、責任を持って対応させていただく事になります（但、部品代金は別途。）。
- ③点検終了後に3年間保管義務のある「年次点検記録証明書」を発行させていただきます。

御見積書御希望の際には、御気軽に弊社担当まで御問合せ下さい。

※高所作業車につきましては、点検内容は法令で定められております。
詳細は担当に御問合せ下さい。

株式会社 アクセス
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
Tel:047-481-8721 Fax:047-481-8722

《MEMO》

本表をコピーして点検時にご使用ください。

3年間保存

型式

作業場所

高所作業用リフト作業開始前点検・1ヶ月自主検査表

セリアルNo.

実施社名

No.	点 検 項 目		点 検 内 容	点 検 結 果										特 記 事 項
				／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	
1	電気系統	キースイッチ	機能の良否											
2		電源ボタン	機能の良否											
3		上昇ボタン	機能の良否											
4		下降ボタン	機能の良否											
5		補助バッテリー	充電状況(単三乾電池8本)											
6	油圧系統	油漏れ	油圧タンク周り、車体下部周りの目視											
7	安全装置	インターロックランプ	機能の良否											
8		アウトリガー	機能の良否											
9		各部キャスターロック	機能の良否											
10		緊急停止ボタン(上)	機能の良否											
11		緊急停止ボタン(下)	機能の良否											
12		水準器	機能の良否											
13		緊急降下バルブ	機能の良否											
14		降下スイッチ	機能の良否											
15	作業台	作業台	変形・歪み等の発生確認											
16		ガードレール	変形・歪み等の発生確認											
17		ガードレールロック	機能の良否											
18	その他	異音	発生確認											
19		振動	発生確認											
20		車輪の亀裂	目視確認											
記号	レ:良好 ○:処理済		点検者											
	×:不良		確認者											

注
意
事
項

①点検の結果、使用に関して著しい不良もしくは誤作動及び作動しない状態が確認された場合には、使用を停止しメーカーに御連絡下さい。②点検の結果、部品交換等の大規模な修繕を必要とする場合にはメーカーに確認の上、現状回復作業を行う様にして下さい。③高所作業台(本機)に法定点検義務はありませんが、定期自主検査については、労働安全衛生法及び労働安全規則に記載の「高所作業車」に準ずる形での実施が望ましいとされており、また厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課建設安全対策室監修・(社)仮設工業会編集・発行による「仮設機材認定基準とその解説」において「1年以内毎に1回の実施」と定められております。

責任者	確認者	点検者

製作・監修・発行 株式会社 アクセス
千葉県習志野市津田沼5-12-12
TEL:047-481-8721
FAX:047-481-8722



〒275-0016

千葉県習志野市津田沼 5-12-12

株式会社アクセス

TEL: 047-481-8721

FAX: 047-481-8722

www.access-co.com